

## ロシア語のモダリティ

小川 暁道

## 1. はじめに

現代ロシア語では他の言語と同様、さまざまな文法的・語彙的・イントネーション的手段によってモダリティを表す。モダリティ表現は特定の文法カテゴリーに直接結びつくものではなく、話者の評価の表現手段は多様である。本稿では論集の趣旨に基づき、あらかじめ用意されたモダリティ表現のロシア語における表現手段を通して、モダリティ表現におけるロシア語の特徴を見てゆく。ここではイントネーション的手段には触れず、文法的・統語的・語彙的手段についてのみ扱う。それらの手段について以下に概説する。

アカデミー文法では、まず客観的モダリティと主観的モダリティの2つのタイプに分類されている。客観的モダリティは発話内容の現実に対する態度、すなわち現実性／非現実性という枠組みで表される。現実性には直説法が用いられ、現在・過去・未来の時制が存在する。非現実性には仮定法・命令法が用いられ、時制は存在しない。主観的モダリティは話者の現実に対する態度で、客観的モダリティよりもより広い内容を持ち、現実か否かの客観的モダリティに追加的な意味が加わるものである。客観的モダリティの表現手段としては、動詞 *мочь*, *хотеть*, *желать*, 形容詞短語尾形 *должен*, *обязан*, 述語副詞 *можно*, *нельзя*, *надо*, *нужно*, *необходимо* などの語によって可能性、願望、義務、不可欠、必要などのモダリティを表す。主観的モダリティは助詞 *вроде* (非確信), *якобы* (疑念), 間投詞 *бац*, *хлоп* (突然), 挿入語 *наверное*, *вероятно*, *кажется* (確実性), *на счастье* (肯定的評価), *к сожалению* (否定的評価), 語順、特別なモダリティ成句、イントネーションによって表される。

ただし、当然のことながら法の概念は客観的モダリティにのみ現れるわけではなく、現実性／非現実性に関してのみで、それ以外のモダリティ的要素が加わる場合は主観的モダリティにも現れる。

## 客観的モダリティ

現実／非現実

## 主観的モダリティ

事実に対する評価 (確信／非確信, 同意／不同意, 肯定的評価／否定的評価など)

それでは用例を見てゆく。

## 2. 用例

(1) (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。

a. Вам<sup>1</sup> можно идти / ехать<sup>2</sup> домой.

you:DAT. it is possible to go home

b. Вы можете идти / ехать домой.

you be able:PRES.2.PL. to go home

a では無人称述語, b では状況可能の動詞で表されている。両者の間にニュアンスの差はない。

(2) (腐っているから, あなたは) それを食べてはいけない。 / それを食べるな。

a. Нельзя это есть.

it is not allowed this to eat

b. Ты не можешь это есть.

you not be able:PRES.2.SG this to eat

/ Не ешь.

not eat:IMPER.2.SG

a では禁止の無人称述語で表される。b のように, (1)で見られた状況可能の動詞を否定文で用いる。また, 命令法を用いた表現も可能である。禁止を表す文では不完了体動詞の不定詞を用いる。

(3) (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない。

a. Нам надо идти домой.

we:DAT. it is necessary to go home

b. Нам пора идти домой.

we:DAT. it is time to go home

c. Мы должны<sup>3</sup> идти домой.

We have to:ADJ.M.SG to go home

<sup>1</sup> 代名詞および動詞の 2 人称単数形と複数形では, 相手が単数であっても敬意を表す必要がある場合には複数形を用いる。(1)では「～いいですよ」という文体から, 2 人称複数形を用いた。対応する形式は a. Тебе ~, b. Ты можешь ~ である。(「～いいよ」の意。) また, (2)の命令形も同様である。(対応する形式は Не ешь. 「食べないでください。’) 本稿では日本語の文体に対応すると筆者が判断する形式で表す。

<sup>2</sup> ロシア語では移動を表す動詞に ехать – идти (交通手段利用 – 交通手段利用を明示しない表現) との対立があるが, 以後特に必要のない限り идти を用いる。

<sup>3</sup> 形容詞語尾には性・数の対立 (男性単数, 中性単数, 女性単数, 男・中・女性複数の 4 種類) がある。特に必要のない限り男性単数形を用いる。

a は義務の無人称述語, b は時間的義務の無人称述語である. c のように形容詞的述語で表すことも可能である. a と b は無人称文であるため意味上の主語は与格, c は人称文であるため主格主語となる.

(4) (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ.

a. Вам лучше взять зонт.

you:DAT. it is better to take umbrella

b. Желательно взять зонт.

it is desirable to take umbrella

a は無人称述語 хорошо (良い) の比較級で日本語と同様, 「(持って行かないよりも) 良い」の意である. b は願望の無人称述語で表されている.

(5) 歳を取ったら, 子供の言うことを聞くべきだ/ものだ.

a. В старости надо слушаться детей.

at old age it is necessary to obey children

b. В старости вы должны слушаться детей.

at old age you have to:ADJ.PL. to obey children

(3)と同様, 義務の無人称述語および形容詞的述語で表される. 無人称文で一般的な内容を表す場合は意味上の主語 (与格) は省略されるが, b は人称文のため主語が必要である.

(6) (お腹が空いたので, 私は) 何か食べたい.

Я хочу есть.

I want:PRES.1.SG to eat

英語と同様, 「欲する」の意の動詞が用いられる.

(7) 私が持ちましょう.

a1. Давайте я вам понесу.

let I you:DAT. to carry

a2. Давайте я вам помогу нести.

let I you:DAT. to help to carry:IMPF

動詞 давать の命令形は動詞 1 人称単数形とともに用いられることによって提案の意を表す.

(8) じゃあ, 一緒に昼ごはんを食べましょう.

Ну, давайте пообедаем вместе.

well let's to have lunch:PRES.1.SG together

動詞 *давать* の命令形は不完了体動詞不定形や完了体動詞 1 人称複数形とともに勧誘の意を表す。

(9) 一緒に昼ごはんを食べませんか？

Не пообедаете ли вы со мной?

not to have lunch:PRES.2.PL. whether:PARTL. you with I:INS.

疑問の助詞を用いた否定疑問文によって婉曲的な表現となる。この場合(8)とは異なり、勧誘の意を表す動詞 *давать* の命令形は用いられずもっぱら相手の意向を問うのみである。

(10) 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。

a. Я хочу, чтобы завтра была хорошая погода.

I want that tomorrow be:PAST.F.SG good weather

b. Было бы хорошо, если бы завтра была хорошая погода.

be:PAST.N.SG PARTL. it is good if PARTL. tomorrow be:PAST.F.SG good weather

a のように動詞で表す場合と b のように仮定法で表す場合とがある。前者は希望の意の接続詞以下の従属節に動詞過去形が現れているが、時制の区別はない。後者でも同様に時制の区別を持たず、従属節においても主節においても仮定を形成する助詞 *бы* が動詞過去形とともに使用される。

(11) (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。

Принеси немедленно.

bring:IMPER.2.SG immediately

2 人称命令形によって表される。

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか？

Не дадите ли мне эту ручку?

not give:IMPER.2.PL. whether:PARTL. I:DAT. this pen

疑問の助詞を用いた否定疑問文で相手の意向をたずね、婉曲的で丁寧な懇願を表す。

(13) あの人は中国語が読めます。／あの人は中国語を読むことができます。

Он умеет читать по-китайски.

he be able to read Chinese

能力可能の動詞で表される。

(14) 明かりが暗くて、ここに何て書いてあるのか、読めない。

a. Я не могу это прочитать, так как здесь темно.

I not be able:PRES.1.SG this to read as here it is dark

b. Невозможно это прочитать, так как здесь темно.

it is not impossible this to read as here it is dark

状況可能の動詞で表される。bのように無人称述語で表すこともできる。なお、(2)のように否定文においては禁止・不必要を表す場合動詞は不完了体であるが、状況可能の文ではアスペクトの意味に従って動詞の体が選択され、ここでは具体の一回の動作が表され、完了体の個別的意味である具体的事実の意味である。

(15) (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ。 / もう着いたに違いない。

Они уже должны прийти туда.

they already have to:ADJ.M.SG to reach there

形容詞的述語により予定・確実性を表す。予定・確実性を表す無人称述語はない。

(16) (あの人は) 今日はたぶん来ないだろう。

Он, может быть, не придёт.

he perhaps not arrive:PRES.3.SG

挿入語によって推量を表す。ロシア語では完了体の現在形は未来の意味を持つため、時制の上では未来時制である。

(17) 彼らがまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

a. Они еще не приехали, наверное, у них машина сломалась.

they yet not arrive:PAST.PL. probably their car break:PAST.F.SG

b. Они еще не приехали. Не сломалась ли у них машина?

they yet not arrive:PAST.PL. not break:PAST.F.SG whether:PARTL. their car

日本語の文に対応する接続詞はなく、aの挿入語のような語彙的手段で、またはbのように疑問の助詞を用いた疑問文で疑念を表す。

(18) さあ、(昼間だからあの人は家に) いるかもしれないし、いないかもしれない。

Я не уверен, дома ли он.

I not be confident at home whether:PARTL. he

確信・自信の意の形容詞的述語の否定形を用いる。

(19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

Мне кажется, у вас температура.

I:DAT. it seems you have temperature

無人称動詞または挿入語によって話者の判断を表す。「~のように見える」,「~と思われる」の意で、視覚/聴覚とそれ以外の感覚による区別はない。

(20) (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。

Говорят, что завтра будет дождь.

say:PRES.3.PL. that tomorrow will be rain

英語と同様、動詞の3人称複数形を用いた主語を持たない不定人称文によって伝聞を表す。

(21) もしお金があつたら、あの車を買うんだけどなあ。

Если бы у меня были деньги, я бы купил эту машину.

if PARTL. at my place be:PAST.PL. money I PARTL. buy:PAST.M.SG this car

仮定法によって反実仮想を表す。(10)と同様、従属節にも主節にも動詞過去形が用いられ、時制の区別はない。

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

Если бы вы мне не подсказали, я бы не смог прийти туда.

if PARTL. you I:DAT. not suggest:PAST.PL. I PARTL. not be able:PAST.M.SG to reach there

(21)と同様に仮定法によって反実仮想を表す。(10)では未来の願望を、(21)では現在の反実仮想、(22)では過去の反実仮想を表しているが、先に述べたように時制の区別はない。

(23) (あの人は) 街へ行きたがっている。

Он хочет поехать в город.

he want:PRES.3.SG to start to city

(6)と同様、動詞によって希望を表す。日本語の「~たがる」のように、人称による区別はない。

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ。

Дай мне попить.

let I:DAT. to drink

使役の意の動詞の2人称命令形で表す。接頭辞 по-「ちょっと、しばらく」の意で不完了体動詞を完了体化する方法でもあり、またその分量や時間の具体性といった意味的側面により、ここでは完了体動詞が用いられている。

(25) これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。

Пусть он отнесет.

let he carry away

3人称命令形で表す。助詞とともに、動詞現在形を用いる。

(26) そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい。

Съешь конфеты, которые лежат на столе, позже.

eat:IMPER.2.SG sweets which:PL. lie:PRES.3.PL. on table later

ロシア語では時制が存在するのは直説法のみであり、動詞過去形が使用される仮定法と同様、命令法にも時制はない。

(27) もっと早く来ればよかった。

Было бы хорошо, если бы я пришёл пораньше.

be:PAST.N.SG PARTL. it is good if PARTL. I arrive:PAST.M.SG a little earlier

(21)(22)と同様、仮定法が現れる。

(28) あなたも一緒に行ったら（どうですか）？

Не пойдёте ли вы вместе?

not to start:PRES.2.PL. whether:PARTL. you together

(9)(12)と同様、相手の意向をたずねる文となる。

(29) オレがそんなこと知るか。

Откуда мне знать?

from where I:DAT. to know

疑問詞と動詞不定形により反語を表す。無人称文であるため、意味上の主語は与格になる。

(30) これを作った（料理した）のは、お母さんだよ？ いいえ、私が作ったのよ。

Это мама приготовила, да? Нет, это я приготовила.

this mother prepare:PAST.F.SG yes:PARTL No this I prepare:PAST.F.SG

付加疑問文では文末に肯定の意の助詞をつける。

### 3. おわりに

ロシア語のモダリティー表現では、冒頭で述べた語彙的、統語的表現の他にも、以上に見てきた例文の中では不完了体－過程・反復・一般的事実、完了体－具体的事実・一回のようにアスペクト的対立をなす動詞が、禁止－不完了体、不可能－完了体と使い分けられる。他にも、不必要－不完了体やまた否定命令文においては禁止－不完了体、警告－完了

体など、本来アスペクトを持つ動詞の形式がモダリティーの意味を区別する。以上のように許可・可能・必要などのモダリティーにおいて否定の形式をとる場合、特定のアスペクト形式が選択されるということがロシア語の特徴である。

#### 略号・記号

PRES.=現在形, PAST.=過去形, IMPER.=命令形, 1, 2, 3 =1, 2, 3 人称, SG.=単数,  
PL.=複数, M.=男性形, N.=中性形, F.=女性形, PARTL.=助詞, ADJ.=形容詞  
DAT.=与格, INS.=造格

#### 謝辞

本稿の作成に際して、外務省研修所講師 KONYAKHIN Vasiliy 氏, ANTOKU Nina 氏にご協力頂いた。ここに深く感謝の意を表したい。ただし本稿において誤りがあった場合は筆者の責任である。

#### 参考文献

- Виноградов, Виктор В. 1950. О категории модальности и модальных словах в русском языке, в кн.: Избранные труды. Исследования по русской грамматике, М.:*Наука*.
- Шведова, Наталия Ю. и др. 1980. АН СССР. Русская грамматика, т. 2, М.:*Наука*
- Зализняк, Анна А., Шмелев, Алексей Д. 2000. Введение в русскую аспектологию, М.:*Языки русской культуры*.
- Караулов, Юрий Н. 1997. Русский язык : энциклопедия, М.:*Дрофа*.
- Петров, Николай Е. 1982. О содержании и объеме языковой модальности, Новосибирск:*Наука*